

1. ハシナ首相、選挙管理内閣立ち上げ

11/18、政権与党のアワミ連盟のハシナ首相は、来年1月にも行われる総選挙に対応するため、複数の政党に参加を呼び掛けた選挙管理内閣を立ち上げた。ハシナ氏率いる与党アワミ連盟と連合を組む政党の計6人が、閣僚に任命された。ハシナ氏は、対立する最大野党バングラデシュ民族主義党(BNP)にも参加を求めたが、BNPは拒否。BNPはハシナ氏の辞任と、中立な選挙管理内閣の下での総選挙を求め、ゼネストやデモを繰り返している。バングラデシュでは、このところ、BNP などによりハルタルが頻繁に行われており、経済活動に大きな支障となっている。

2. 政治の行き詰まり、ビジネスに多大な影響

多くのビジネスマンたちが、現在の政治的行き詰まりに懸念を示し、わが国の取引と経済のために、「選挙時の政府について、与野党間で早く意見を一致させるよう」要求している。投資委員会(BOI)のデータによると、BOI への投資登録は前年対比で、かなり減少している。ダッカ商工会議所(DCCI)会長 Md.サブール・カンは、「ビジネスマンたちは国内の暴力的な政治を懸念している。現在進行中の政治危機を、国の経済と国民のために、一刻も早く話し合いで解決するように」と、与党と野党幹部に訴えかけている。現在進行中の暴力的な政治と経済的要因を視界に入れ、世界銀行(WB)はバングラデシュの国民総生産(GDP)成長は、政府が予想した7.2%に対し今年度2013-14年度は5.7%に下降すると見ている。バングラデシュ輸出業者協会(EAB)会長アブダス・サラム・ムルシェディーは、「国内の最高の外貨収益を上げているアパレル産業は、工場コンプライアンスや GSP の復活問題について挑戦している。政府と産業の当事者たちはGSP機能を復活させ、アパレルユニットでも職場の安全を確実にするために既に大切な一步に踏み出している」と語っている。

↓ 《ダッカ空港で雨ざらしの滞貨物》



3. ハルタル、RMG 輸出業者を窒息させる

野党による60時間のハルタルが強行されたため、国際取引はほとんど停止してしまった。そして荷物が詰まったままの何千というトラックがランドポートや港で立ち往生したままになっている。バングラデシュ商工会議所(FBCCI)会長カジ・アクラム・ウディーンは、「最悪の時期に3日間のストライキを行うことになった。欧米ではクリスマスが近づき、衣料製品の船積みのピークだというのに、もし、衣料メーカーがこの大切な時期のリードタイムを守ることができなければ、小売業者たちはバングラデシュに対する自信を失ってしまい、注文を他の国に移してしまうであろう」と語っている。バングラデシュ衣料メーカー及び輸出協会(BGMEA)会長のアティクール・イスラムは、「我々は今、スムーズな交通が必要なのだ。バイヤーたちはリードタイムを守れるかどうか頻繁に電話をかけ続けてきている」と語った。シャットダウンの悪い影響が特にチッタゴン港で起きている。普通ならば1,628から2,000TEU(20フィートに等しい単位)が輸送されているが、チッタゴン港当局運行局のデータによると、シャットダウンから24時間経った今212TEUに落ち込んでいる。この2日間、わが国最大のランドポート、ペナポールではまったく積み下ろしがされなかった。ペナポールの対岸インド側のベトラポールではストライキのため輸入が停止され4kmにわたる行列ができた。国内のほかのランドポートでも同じような状況が見られた。ブリーマリ・ランド・ポートの関係者は、「我々は普通、荷物が着いたその日にうちにそれぞれの目的地に送っているのだが、今は我々の倉庫において置かなくてはならない。荷物を積んだインドやブータンからのトラックが120あまり、そして様々な輸出アイテムを積んだ89のバングラデシュのトラックが路上で立ち往生している」と語った。

4. GSP 差し止めにもかかわらず US への輸出上昇

アメリカへの輸出は9月になって、GSP機能の差し止めにも拘らず、目覚しく増加した。ただしこれは「輸出業者が彼らの安定のために、利益を大幅に犠牲にして輸出に努力している結果である。また新しい輸出アイテムが増えたことにもよる」と、関係者は語っている。輸出推進局(EPB)のデータによると、バングラデシュは9月、(以前GSP機能を享受していた)品物を4,203万ドル相当輸出した。カツラや人髪の輸出業者「YCL Ind BDリミテッド」のプロジェクトマネージャーは、「商品の質が良いので輸出が増加している」と語った。海老、カツラ、寝袋、陶器製品、ガラスやガラス食器そしてジュート袋などがアメリカ市場で目覚ましい成長を見せている商品の中に含まれている。さらにアメリカのGSPプログラムは、バングラデシュからの主なアイテムである衣料を含めていない。

5. 韓国への RMG 輸出、大幅増加

10/30、新しいテキスタイル・テスト・ラボ KOTITI バングラデシュリミテッドの開会式で、在バングラデシュ韓国大使リー・ユン・ヤングは、「韓国へのバングラデシュの RMG (既製服) 輸出はここ 5 年間に平均して 69% 成長し、韓国への輸出は毎年 160 億ドルになっている。1977 年に韓国の大手企業大宇が投資して以来、バングラデシュの RMG 部門へ、220 あまりの韓国の会社が投資を始め、160,000 人のバングラデシュ人に仕事の機会を作った」と、語った。産業大臣デディプー・バルワもチーフゲストとしてこの催しに参加し、「国内の既製服はその品質で世界中を掴み、より価値を高め、産業の近代化を図ることで RMG 輸出収入を倍増していく余地がある。ワールドクラスのテスト・ラボを作ったことはこの可能性を達成するキーになるであろう」と語った。テスト・ラボが世界基準を確保している以外にも、この新しいラボはテスト費用の削減に役立つこともバルワは期待している。KOTITI バングラデシュリミテッドは、200 万ドルの投資を受け建設された。ここではテキスタイル製品を物理的にも分析的にも最新の技術を使ってテストされることになっている。産業界の人々は、「地元の企業が、このラボから比較的すくない費用で品質証明書を入手できる」と期待している。

6. ILO と政府 2400 万ドルで、工場安全対策新プロジェクト開始

10/25、政府と国際労働機構 (ILO) は、バングラデシュの主な外貨収入源である既製服産業での労働条件を改善するために、2,421 万ドルをかけプロジェクトを始めた。「既製衣料部門での労働条件の向上」と名づけられたこのプロジェクトは、アパレル工場での火災と建物崩壊の危険を最小限に収めること、そして労働者の権利と安全を確実にすることによって焦点を当て、バングラデシュ工科大学による専門家たちが、1,500 の RMG 工場建物と火災安全について調査することになっている。このプロジェクトは今年 4 月に 1,132 人の労働者を死亡させたラナプラザの崩壊を含む RMG 部門での数多く起きた産業事故への対応として始められた。

7. RMG 工場検査開始

政府は衣料縫製工場の構造欠陥を検査するためのプログラムを、安全チェックリストを最終決定した後、遂に 11/01 から開始することになった。BUE (バングラデシュ工科大学) チームは、政府・取引同盟・取引組合そして国際労働機構 (ILO) の 3 者間で交わされた合意の下に、1,500 から 1,200 の縫製工場を検査することになっている。工場・企業の検査局 (DIFE) の主任検査官 Md. マシウル・ラハマンは、「検査マニュアルが完成し、検査を実行する段階に来ている。火災、電気および建物安全に関しての 18 から 20 の法律が、マニュアルの中に調整されている」と語った。

8. 工場安全への努力、EU 賞賛

バングラデシュの最大の輸出先であるヨーロッパ連合は、バングラデシュの「労働者権利の擁護と職場の安全の向上への努力」に評価を示した。バングラデシュへの EU 代表団の団長ウィリアム・ハンナは、「アパレル部門開発のためのリフォームを導入するために、さまざまな分野でここ数ヶ月間に多くのことがなされたと思う。RMG 部門の成功物語 (サクセスストーリー) を将来持続させるために、リフォームは必須である。これでこの部門が前進することができる。政府がこのセンターとなり、我々も技術援助をしてくれる ILO と共に協力する。我々は EU、バングラデシュ政府そして ILO がジュネーブで 7 月署名したものを全て行った」と語った。

9. 48 アパレルメーカー、UD 証明書を取り戻す

工場の屋上に 25% のスペースを確実に空けたので、BGMEA は UD 証明書 (輸出のための法的書類) を 48 のアパレルメーカーに返還した。BGMEA は、8/13 を屋上に 25% のスペースを空けていないことを理由に、UD 証明書を 160 のメンバーから取り上げた。BGMEA の副会長シャヒドウッラ・アジムは、「建物の屋上に 25% のスペースを確保したので、48 の工場に UD 証明書を返還した」と語った。48 の工場に UD 証明書を返還すると同時に、他の 34 アパレルメーカーに建築法規に従い屋上に 25% のスペースを空けるための工事の期限を延長した。その上、残りの 78 の工場に UD 証明書を返還するために、彼らの工場の屋上にどのようにして 25% のスペースを確実に空けるのか表記した計画書を提出すること申し渡した。一方、消防及び民間防衛局は、新しくできる工場には屋上に 25% のスペースを空けるように厳命し、さなければ新しい工場は消防庁から認可を受けることはできないことを明らかにした。

10. BGMEA、最低賃金を 4500 タカに決定

既製服 (RMG) メーカーは、賃金委員会に衣料労働者の最低賃金を 4,500 タカで申請することを決定した。その賃金は 40% の家賃として 1,040 タカ、240 タカの医療手当、250 タカの交通費、そして 300 タカの食費助成金を含めている。しかし労働代表シラジュール・イスラム・ロニーは「労働者たちのもっと大きかった期待が無視されているのでこれで妥協する見通しはない」と語っている。

11. 賃上げに関する知識人たちの見解

エコノミストや権利活動家たちは、食品のインフレだけでなく生活費を考慮に入れて最低賃金を決定するシステムを歓迎している。元バングラデシュ銀行総裁サレウッディン・アハメドは、「インフレだけを考慮に入れて最低賃金を決めるのは賢い方法ではない。教育、健康や他のコストなどの要因も考慮に入れるべきである」と語った。ダッカ大学経済学部教授 MM アカシュは、「ほとんどが女性である衣料労働者は、バングラデシュの主な産業部門の中でもっとも低い賃金を受け取っているひとつである。バングラデシュのライバル国の南アジアの国々の間でも最低の賃金である。衣料工場オーナーたちは労働者に適当な賃金を確実にするために、彼らの利益の一部を犠牲にしなくてはならない。賃金アップは、しばらくの間中小企業の工場に影響するであろうが、労働者たちへのさらに高い最低賃金 8,000 タカは産業全体のためになる」と語っている。ダッカ大学経済学部教授シャフィク・ウズ・ザマンは、「グローバル・アパレル市場でのバングラデシュの競争相手たちは、彼らにより高い賃金を支払いより高い輸出収益をあげている」と語った。ダッカ大学社会学部教授アル・マハブブ・ウッディン・アハメドは、「国内の衣料産業は、グローバル・衣料ブランドの言うままになっている。我々の衣料工場はこれらの小売業者に奉仕させられている。だから国内の資本運営も労働力も問題を抱えてしまうのだ。衣料工場オーナーに自分たちの製品でブランドを立ち上げ、このサークルから抜け出すべきだ」と提案した。ダッカ大学の社会学部教授 KAM サドウッディンは、「海外のバイヤーたちは先にジュネーブで行われた会議でバングラデシュの労働者の状態を向上させるための、アパレル価格を値上げすることに賛成しなかった。グローバル小売業者はバングラデシュのような供給国に支払っているよりも、はるかに高い価格で衣料を販売している。しかし、バイヤーたちは彼らの売り上げ収益と比べると、わが国で労働者のためにはわずかの金額を使っているだけである」と語った。

12. 貧者の銀行に介入強化、ユヌス氏反発

「貧者の銀行」として知られるバングラデシュのグラミン銀行が、政府による関与が一段と強まる法改正で揺れている。少額融資で多くの人々を貧困から脱却させてきた機能を弱めかねないとして、創設者でノーベル平和賞受賞者のムハマド・ユヌス氏(73)らが介入強化に強く反発している。11/05、バングラデシュ国会は、政府の出資比率は25%のまま、中央銀行が総裁と役員任命権を事実上、握るなどといった法改正案を可決。監査の厳格化や、進出領域の制限など監督強化も盛り込まれた。これに対しユヌス氏は「(法改正は)グラミン銀行の終わりの始まりだ。こんなことは許されない」と批判。柔軟な運用をしてきた貸出基準が厳しくなり、融資を希望する貧困者への支援が難しくなるほか、独特の組織文化が失われることを懸念しているとみられる。グラミン銀行グループは社会的問題をビジネスで解決する方針の下、日本のユニクロや雪国まいたけなどと合弁会社を設立。「現時点では影響はない」(関係者)が、今後政府の介入が強まる可能性もある。地元記者は「ハシナ首相と、国民的な人気があるユヌス氏の反目が背景にある」と指摘する。ハシナ首相は政界入りを一時目指したとされるユヌス氏を警戒。11 年にはユヌス氏がグラミン銀行の総裁職を解任された。今年9月には脱税の疑いがあるとして、ユヌス氏周辺の捜査を政府が指示しており、確執は深まっている。

13. ヨルダン縫製工場へ、バングラデシュ女性労働者進出

海外での女性労働者の雇用は中近東(ME)の国々の需要が増えたため、昨年に比べると今年は著しく増加している。41,064 人の女性労働者が 2013 年 1 月から 9 月までの間で海外へ出ており、2012 年の 27,515 人に比べ 49% 増えている。全体的な海外就職は大幅に減少しているが、女性雇用に関してはヨルダンの縫製工場のバングラデシュ労働者の需要が増え、健全な成長を見せている。この国は、去年の 7,278 人から上記の期間に 16,291 人に雇用を増やした。カタールやイランでもバングラデシュから多くの労働者を雇用するので女性労働者の数はこれからも増えるであろう。現在バングラデシュの女性労働者は 43 の国々で働いている。1991 年から 2012 年の間に 206,525 人の女性労働者が海外に行った。この中のほとんどは中近東の家政婦として働いている。

以上